

ヘルスサービスリサーチ Health Services Research

教 授: 田宮菜奈子

准教授: 杉山雄大 森隆浩 佐方信夫 井口竜太

助 教: 伊藤智子 岩上将夫 渡邊多永子

金雪瑩 石丸美穂 森田光治良

Office: 医学医療系棟 861

電話: 029-853-8324

連絡先: ntamiya@md.tsukuba.ac.jp

HP: <http://www.md.tsukuba.ac.jp/hsr/>

わが国の医学・医療技術のレベルは、研究者らのたゆまぬ研鑽によって世界でも最高水準を誇っている。しかし、それが必要とする人に確かに届けられているだろうか。

ヘルスサービスリサーチとは

社会的要因、報酬体系、組織の構造とプロセス、医療の質とコスト、そして最終的には、健康やウェルビーイングへの影響を科学的に探究する学際的な研究分野である (Academy Health, 2000)。



*Towards Health Services in harmony with human life
生活と調和した医療のために*

ヘルスサービスリサーチ分野では、医療・介護等のサービスの質を、

- ・ **Structure (or Input)** : 人員体制、設備、予算など
- ・ **Process** : ヘルスシステム下での Utilization、Accessibility、Referral など
- ・ **Outcome** : これらのプロセスの結果、どのような変化が生じたか

の視点から、包括的・科学的に評価・分析し、医療分野だけでなく、政策学、法学、経済学、社会学、人類学等の学際的視点から考察し、その成果を国内外に発信することで、サービスの質向上を図り、「生活と調和した医療実現」の一助となることを目指している。

ヘルスサービスリサーチは、欧米諸国においては、公衆衛生学の重要な一部として位置づけられ、主な公衆衛生大学院には開講されている。しかし、わが国では、まだ緒についたばかりで、ヘルスサービスリサーチ分野が大学の研究室として存在するのは、当研究が初めてである。

研究室について

現在、教員23名(教授、客員教授、准教授、助教)、ヒューマン・ケア科学専攻(博士後期課程)学生6名、疾患制御医学専攻(博士後期課程)学生5名、フロンティア医科学専攻コース(MPH)学生4名、研究員(常勤、非常勤、客員)31名、秘書5名が所属している。医師、保健師、看護師、薬剤師、理学療法士、社会福祉士など、自らの専門資格や経験を活かしつつ、学際融合的な視点で、科学的に評価・分析し、その成果を国内外の学術論文に発展させることができる学生の育成を大切にしている。また、2017年7月より開設した「ヘルスサービス開発研究センター」は、医療から介護・福祉を一連のサービスとしてとらえ、実証データに基づく研究成果を通じて、生活と調和した質の高いサービス提供の実現を促進することを目的としている。研究成果をより社会に還元していくために、開かれた大学らしい日本で最初のHSRに特化したセンターである。

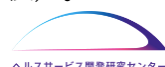
研究成果としては、2019年度は51本の英文の原著論文を出版し、毎年多数の学会発表も行っている。また、2017年に田宮らの編集のもと「ヘルスサービスリサーチ入門：生活と調和した医療のために(東京大学出版会)」が出版され、2019年には雑誌「公衆衛生」でヘルスサービスリサーチの特集が組まれ当研究室メンバーが執筆を担当し、本研究室で得られた知見も数多く紹介されている。2011年発行の田宮によるLancetをはじめ、介護保険制度の実証研究を海外に発信することも本研究室の主要研究テーマの一つとなっており、留学生も迎え、ゼミでは英語での議論も行っている。また、全国規模のビックデータを扱う研究も実施しており、学類生(医学、看護、医療科学)でも、様々なデータを利用して自身の関心にあわせた研究をすることができる様に支援をしている。すでにこの実習を低学年から継続している学生や、実施後の研究成果を論文として発表した卒業生もいる。

眼の前の患者さんの為の医療から少し視野を広げ、一人ひとりの疾病の背景にある社会に目を向け、さらに社会の中の医療の在り方の視点を、医療人として早い時期にもっていただくきっかけになればうれしい。

当研究室に興味がある人は、研究室のゼミ(医学医療系棟861)にお越しください(原則木曜午後)。

お越しの際は事前に教授 田宮菜奈子(ntamiya@md.tsukuba.ac.jp)までご連絡ください。

また、最新の研究室の動向は、HPのWhat's New!に随時更新しておりますので、ご覧下さい。



ヘルスサービス開発研究センター